

平成23年度学校評価について

学校だより5月号でお知らせしました今年度の重点的に実施した教育活動について、児童・生徒、保護者および教職員によるアンケート調査を行いました。その結果を報告いたします。

- 1 実施方法 マークシートによるアンケート調査
- 2 実施時期 平成23年12月
- 3 調査人数 第3学年以上の児童生徒 460人、全校保護者 598人（児童・生徒数）
- 4 回収率 児童生徒 441人（95.8%） 保護者 431人（72%） 教職員 25人
- 5 調査の概要及び結果

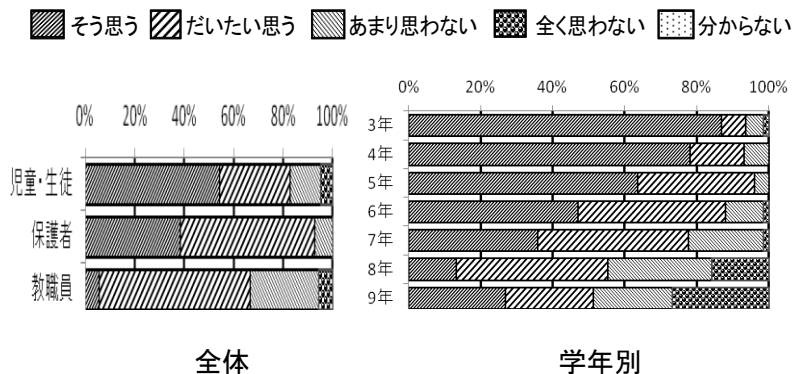
質問の骨子は、平成23年5月の学校だよりでお知らせした学校経営の重点に沿った内容です。

- ・ 児童・生徒については発達段階を考慮し、全体の質問項目を19問にしました。
- ・ 保護者と教職員については、質問項目を25問としました。
- ・ アンケートは 1 そう思う 2 だいたい思う 3 あまり思わない 4 全く思わない 5 わからない の5指選択で回答を求めました。グラフでは5 わからないを除いて表示した個所もあります。

重点1 異年齢集団の交流と学び合いを生かした教育活動を推進します。

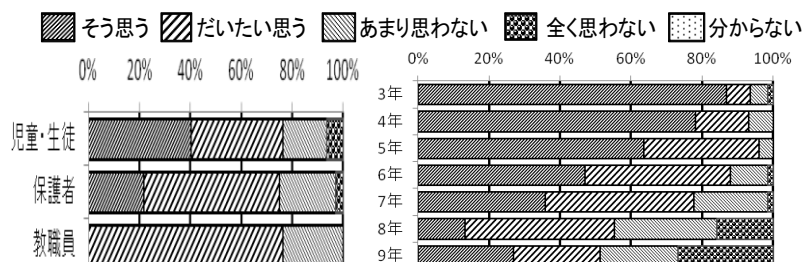
- ◎ 複数学年が交流する飯盒炊爨（5月2日）・総合学習等を実施し学園生活に活力を与えます。
- ◎ 運動会（10月1日）・桜祭（文化的行事・3月）の新しい発表形態を立案し実施します。
- ◎ 豊かな情操と礼儀や節度ある態度を育む儀式的行事（卒業式等）を研究し実施します。

1 複数学年が交流する教育活動として、飯盒炊爨・たてわり遠足などを実施しました。このことは子供たちの生活により影響がありますか。



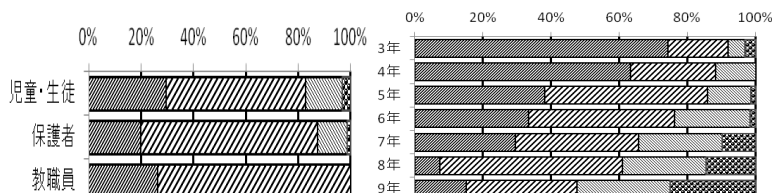
たてわり遠足では4年生が班をまとめ、下級生を励ますなど成果がありました。その後も、東校舎のリーダーとして4年生は成長が見られました。複数学年での交流は下級生ほど肯定的な回答が多く、上級生になると肯定的な回答が減っています。上級生の自主性が発揮できる工夫を増やしていきたいと考えています。また、ランチルームでは下学年が配膳し、上学年が片づけを分担するなど給食を通して異学年交流も始まっています。

2 運動会やその他の学校行事では異年齢集団による交流や学び合いを生かした、新しい学校としての工夫が感じられましたか。



運動会は学級を紅白に分けて行いました。応援合戦で第1～9学年が一つになって応援できたことが印象に残ったという感想が寄せられています。また、「100mの直線が設定できなかった」、「学級対抗で学級所属意識を高めたかった」、「学年単独の種目を増やしてほしい」など保護者からご意見をいただきました。小中一貫教育校としての特色を生かしつつ、異学年交流の良さを生かした競技を工夫していきたいと思えます。

3 学校は子供たちが入学式などのフォーマルな場面の意義を理解した態度で参加するよう指導していると思えますか。

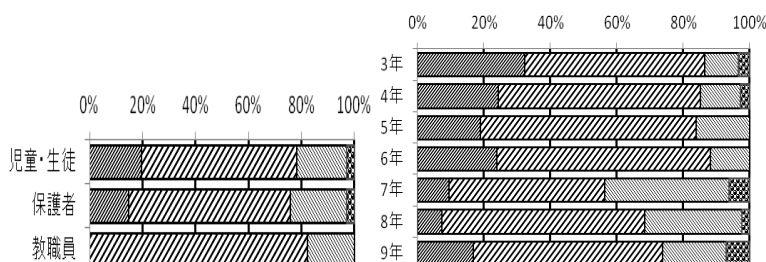


朝礼と児童・生徒総会は児童・生徒会役員の司会進行で実施してきました。朝礼等での礼法は全学年で統一することができました。児童・生徒は落ち着いた態度で参加できています。

重点2 「その日の授業で分からないことはその日のうちに分かるまで教える学校」を目指します。

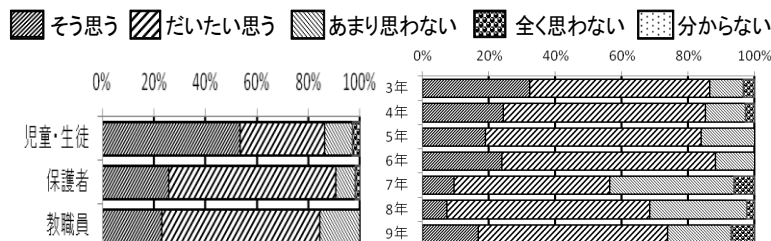
- ◎ 言語能力の向上、英語教育の充実、算数・数学の基礎基本の習得を徹底させます。
- ◎ 少人数指導の充実（算数・数学・外国語）を図ります。
- ◎ 西校舎で5、6年生はゆとりある50分授業、一部教科担任制を推進（社会・理科）します。
- ◎ 個別学習室を活用した補充学習・ソフト教材の採用した指導を展開します。
- ◎ 英語によるコミュニケーション活動を充実（3年生から9年生の7年間）させます。

4 学校は子供たちに学習内容が分かるように授業の工夫をしたり、学習室や放課後の学習教室を充実させたりしてきました。このことは子供の学習に有効に機能していますか。



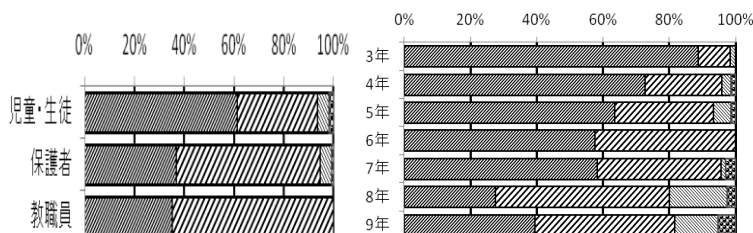
授業がよくわかると答えた児童・生徒は全体では8割近くとなっています。学年別にみると第3～6学年は「そう思う」「だいたい思う」を合わせて8割を超えています。しかし、第7学年以上では第6学年以下と比べると差が見られました。7年生になると全教科が教科担任制になり、学習内容も専門的になります。小学校から中学校に進級する際の戸惑いがあるのだらうと思えます。小中一貫教育はこの問題に対処する方法の一つです。

5 算数・数学、英語で行っている少人数の指導は子供の学習に成果があると思いますか。



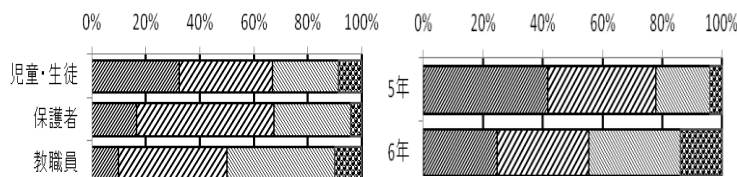
少人数指導については「そう思う」「だいたい思う」を合わせて8割以上が回答しています。習熟度別学習や少人数学習をさらに工夫して進めていきます。

6 担任や教科担当者以外に複数の指導者が授業の支援に入るとは子供の学習活動に役立っていますか。



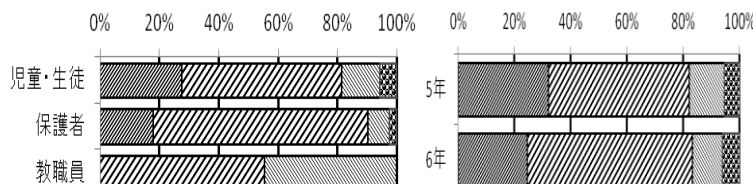
今年度は学力向上支援講師、学校生活支援員、算数・数学、英語に少人数指導教員が配置され、学習や学校生活を支援してきました。また、SSC 大泉から小学校体育コーディネーターが、東京都退職教員互助会からは退職教員ボランティアが派遣され、児童・生徒の学習活動を支援しています。

7 5、6年生の50分授業は子供たちの学力向上やゆとりある学習につながっていると思いますか。



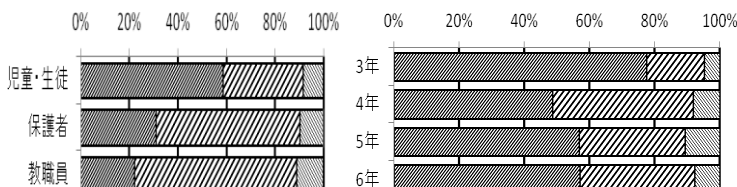
第5・6学年は第7～9学年に合わせて50分授業を行い、ゆとりある学習を展開できました。第5学年は75%、第6学年は60%の児童が「そう思う」「だいたい思う」を選んでいます。

8 5、6年生の一部教科担任制は子供の学習理解に役立っていると思いますか。



第5、6学年で理科と社会で教科担任制を実施しました。児童は7割以上が「そう思う」「だいたい思う」と答えています。来年度は学校全体で検討し、教科の選択を工夫していきます。

9 外国語活動(5・6年)や英語活動(3・4年)に子供たちは進んで参加していますか。

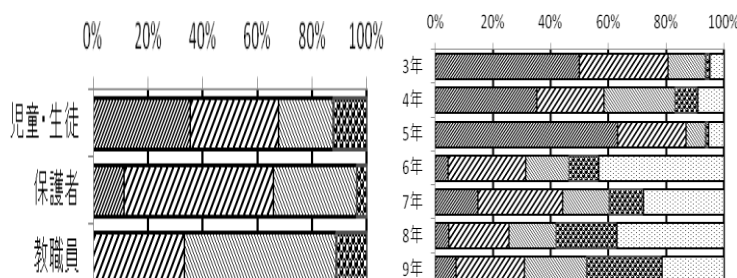


第3学年からの英語に関する学習は、小・中の英語科担当が協力しながら、ALT(外国語指導補助員)も加えた授業を行ってきました。第3学年では9割、第4～6学年は8割が「そう思う」「だいたい思う」と答えています。今後も興味関心を高め、中学校の学習へとつなげていきます。

重点3 体験を重視した活動を通して我が国の伝統・文化の理解を深め尊重する態度を育てます。

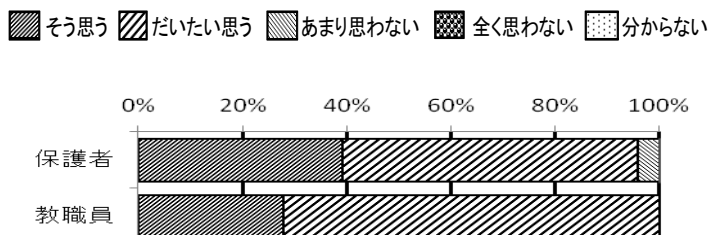
- ◎ 学校田「大泉桜の里」を活用して稲作体験や農家の方と交流を行い、伝統と文化の理解を深めます。
- ◎ 昔の遊びや墨絵・生け花・茶道・能・狂言・伝統工芸・民族舞踊・和楽器の系統した活動を充実させます。
- ◎ 言語能力を高める「いろはかるた・百人一首」等を中心とした伝統的な言葉も獲得を重視した言語活動を充実させます。

10 学習田「大泉桜の里」は学校のシンボルとして、子供たちの学習や生活に活用され、学校の生活に根づいていると思いますか。



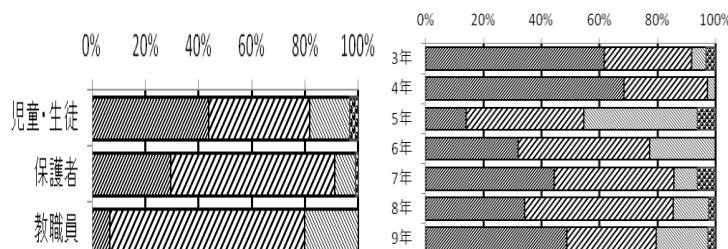
大泉桜の里での稲作は今年度が最初でした。1月には収穫したお米でおにぎりパーティーを行いました。稲作活動と関わりの少なかった第6学年以上では「わからない」の回答が多数ありました。来年度はより多くの学年が理科をはじめとする各教科や総合的な学習の時間で大泉桜の里にかかわれるよう工夫していきます。

11 昔の遊びや墨絵・生け花・茶道・能・狂言・伝統工芸・民族舞踊・和楽器などの伝統的な活動の体験は子供たちの成長にとって意味のあることだと考えますか。



伝統・文化の学習は第6学年が室町体験授業で講師を招いて、華道、茶道、墨絵を体験しています。また、第7学年は和太鼓、箏、狂言を体験します。第8学年は民舞、茶道を、第9学年は能を体験する予定です。来年度も引く続き実施いたします。（体験学習の実施時期が11月以降のため、児童・生徒用の設問はありません）

12 「ことわざや熟語・いろはかるた・百人一首」等を中心とした言語の学習は子供たちの思考力や表現力を豊かにしていると思いますか。

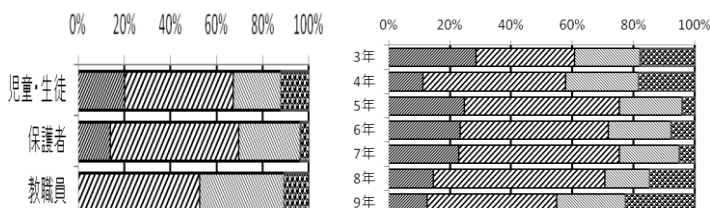


第4学年が地域の方と百人一首大会を行い、その後でランチルームでふれあい給食を行いました。第3・4学年は5色百人一首を使って学習しています。ことわざ、熟語、百人一首、俳句の辞典をそれぞれ40冊購入し、朝学習などに利用しています。昔遊びや百人一首は、保護者の皆様のご協力もいただきました。

重点4 児童・生徒の健全育成と家庭・地域との連携強化を目指します。

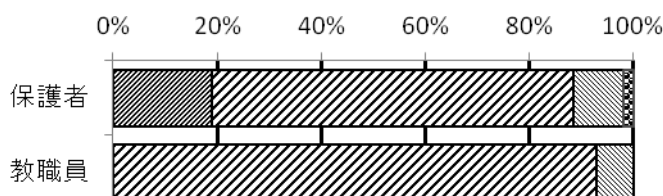
- ◎ 標準服の導入を基盤に、自分の学校に対する誇りや愛校心、優しさと礼儀や秩序を向上させます。学校は学ぶ場です。私服の場合は学校にふさわしい服装をお願いいたします。
- ◎ 学校応援団・青少年育成委員会・青少年委員等との連携を強化して健全育成に努めます。
- ◎ 5、6年生から参加の部活動を充実させ児童・生徒の人間関係を豊かなものにさせます。
- ◎ しつけや礼儀などあるべき子供の姿を明確にして家庭教育との連携を深めます。

13 子供たちは、場にふさわしい、きちんとした服装を意識するようになりましたか。



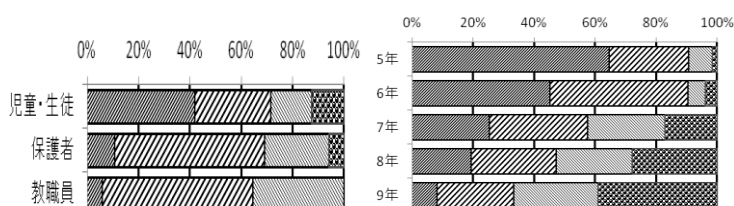
儀式的行事の際には標準服または標準服に準じた服装の着用にご協力いただきありがとうございました。今後はさらなる標準服着用を目指しています。ご理解とご協力をお願いいたします。

14 学校は学校応援団・青少年育成委員会・青少年委員等との連携を強化して健全育成に努めていますか。

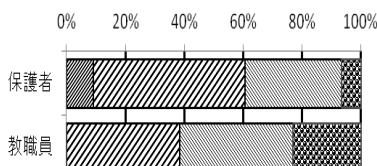


学校応援団には「さくらっこ広場」運営を通して放課後の子供の居場所づくり等にご協力いただきました。また、青少年育成大泉北地区委員会の事業では大泉学園緑小学校で行われた文化集会に吹奏楽部が参加しました。青少年委員会主催で12月に本校で行われた球技大会にもサッカーや少女バレーが参加しました。3月には第5・6学年のサッカー部が青少年育成大泉北地区委員会主催のサッカー大会に出場する予定です。

15 5、6年生の子供たちは部活動に進んで参加していますか。

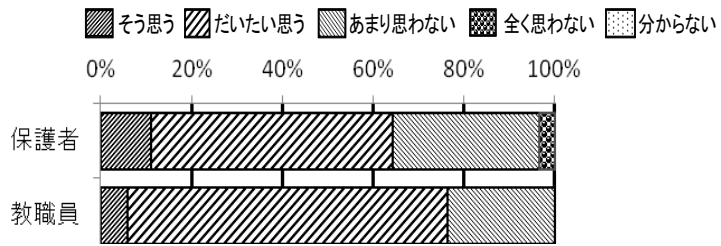


16 5、6年生の部活動参加で部活動が活発になり、楽しく活動することにつながっていますか。



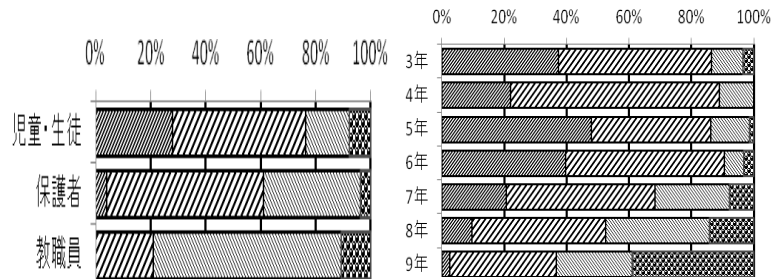
5、6年生から始まる部活動では体育系が66人、文科系が27人、合計93人の児童が入部しています。これは全体の64%に当たります。来年度は第6学年で部活動に参加していた児童が第7学年に進学します。部活動のさらなる発展が期待されます。児童からは「5年生から部活動を始められてうれしい。」という声が聞かれます。上級生が下級生を思いやる気持ち、下級生が上級生を敬う気持ちを大切に育てていきたいと思えます。

17 登校班や地区班が組織されて、集団の登下校等、子供たちの安全に有効に機能していると思いますか。



今年度から登校班登校は5月連休明けと夏休み後、冬休み後の各一週間としました。保護者のアンケートには「地区班登校が少なくなり仲間意識が薄れたような気がします。」とのご意見もいただきました。

18 子供たちはその場に応じた礼儀作法ができるようになっていきますか。

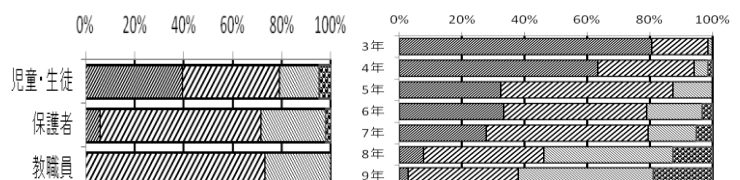


小中一貫教育校となって児童・生徒会中心に挨拶運動を進めてきました。児童・生徒は挨拶を返せますが、自分から先に挨拶することはもう一歩です。児童・生徒会では挨拶運動を通じて挨拶ができる学校をつくらうとしています。

重点5 望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、自己の生き方を考えさせます。

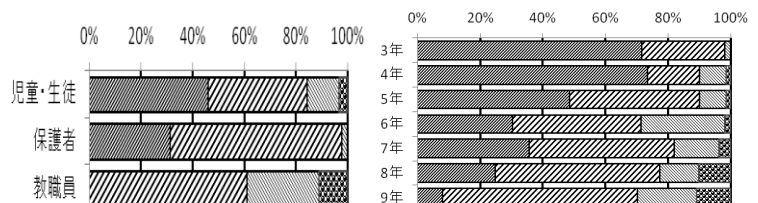
- ◎ 大泉桜の里を生かした農業体験を生かし収穫や労働の大切さを理解させるとともに、環境教育・食育・キャリア教育を充実させます。
- ◎ 地域の教育力を生かした職場体験や大泉特別支援学校との交流を促進させていきます。

19 学校は教科や総合的な学習の時間・道徳などの教育活動を通して、子供が自らの未来や生き方を考える教育を実践していると思いますか。



第5学年と第7学年で職業調べを行い、第7学年が第5学年に調べた結果を発表することになっています。第8学年は地域で職場体験学習を行い、第6学年が第8学年の様子を見学しました。

20 学校は職場体験や大泉特別支援学校との交流、地域めぐりなど、地域を生かした教育活動を行っていますか。

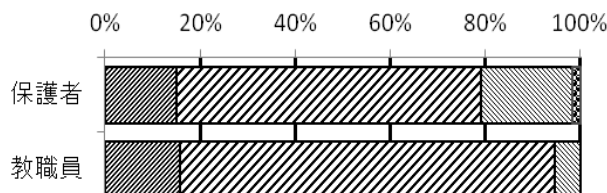


大泉特別支援学校とは第1～7学年が交流してきました。来年度は第8学年まで拡大する予定です。地域の方とのふれあい給食など地域を生かした教育を進めています。

重点6 小中一貫教育に関する校内研究の推進と教育課題研究発表校としての研究に取り組みます。

- ◎ 分科会をもって小中一貫教育校の学校運営に関する研究を行い随時情報発信します。
- ◎ 平成24年度に研究発表会を開催予定です。

21 学校の活動の様子が手紙やホームページ、校内掲示等によってよくわかりましたか。



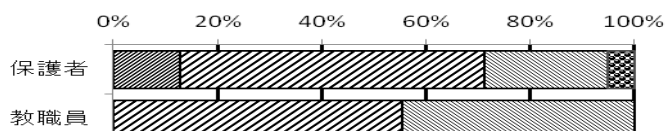
保護者の方からは、「HPがなかなか更新されない」というご意見をいただいています。最近、練馬区のPC環境が変更になり、なかなか更新できていない現状がありました。情報発信ができるように心がけてまいります。

桜連絡会と協力してメール連絡網を整備し、緊急時や不審者情報を発信することができました。1月27日現在37件のメールを発信しました。

重点7 練馬区初の小中一貫教育校にふさわしい特色ある学校づくりを目指した環境整備に努めます。

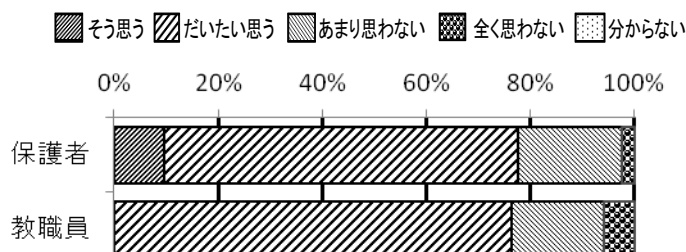
- ◎ 「始めに子供ありき」の視点に立ち、分かりやすい授業実現の為に教育環境整備と活用に積極的に取り組みます。
- ◎ 前年度踏襲にとられない新しい学校環境作りに努めます。

22 学校は小中一貫教育校としての特色や効果が分るように努めていますか。



今年度はランチルームをはじめ、各教室や廊下の塗装、大泉桜の里の整備など校内の改修工事等をすすめました。また、運動会や学習発表会（展示）、3月に予定している桜祭など小中一貫教育校としての特色ある活動を計画しました。平成25年2月8日（金）に、小中一貫教育校としての研究発表会を開催する予定です。

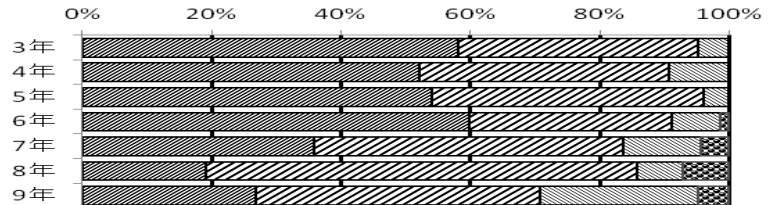
23 本校が重点を置いている「命の教育」は、教科や道徳・総合的な学習の時間等で子供たちへの指導がなされていると思いますか。



道徳授業地区公開講座では「命」をテーマに全学年で道徳授業の公開を行いました。校内研究でも道徳について授業研究を行っています。来年の研究発表に向けて道徳も授業研究を進めていきます。

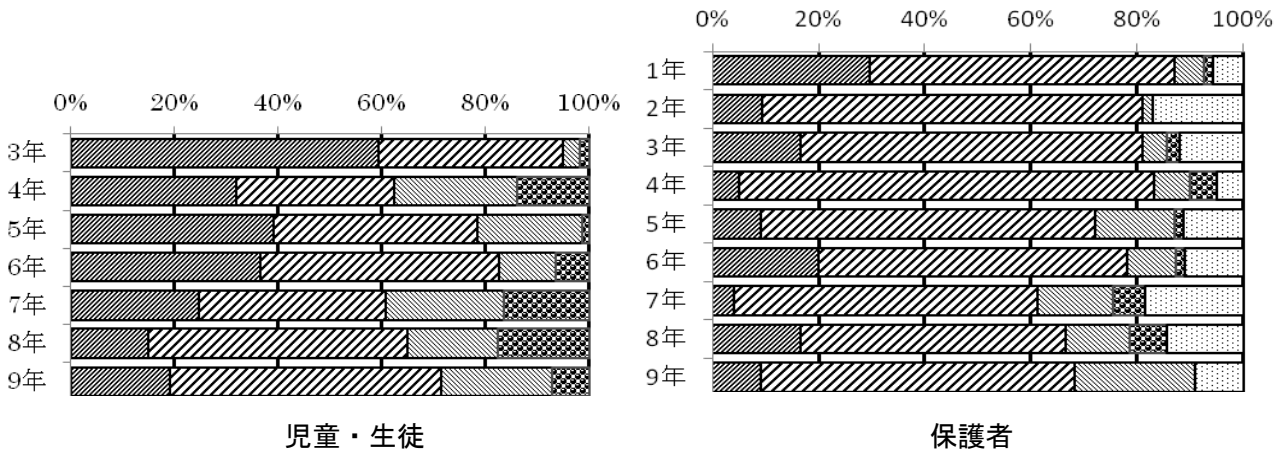
その他の項目

24 学校に楽しく通っていますか。



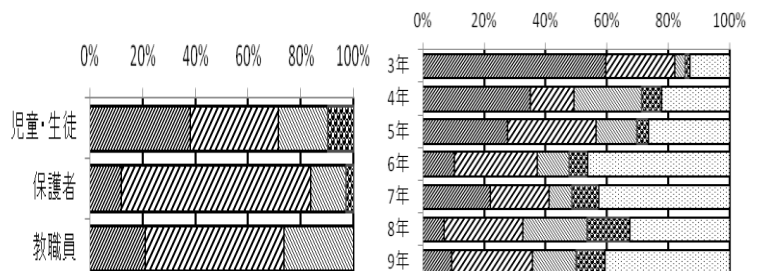
「学校に楽しく通っていますか。」の質問では全体としては9割近くの児童・生徒が肯定的な答えをしています。しかし、学年が上がるほどに否定的な答えも増えています。すべての児童・生徒が自己肯定感をもって、学校生活に取り組めるように教職員一同さらに指導の充実を図っていきます。

25 教職員は言葉遣いや場に応じた服装に気をつけていると思いますか。



言葉遣いや服装についての課題を指摘されています。児童・生徒一人一人の大切さを強く自覚し、自らの言動が児童・生徒の人権を侵害することのないように引き続き意識して接していきます。

26 学校は児童・生徒同士のよりよい人間関係づくりに向けて、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員などと連携しながら、適切に指導していると思いますか。



児童・生徒と保護者ともに「5わからない」が4割近くありました。本校には心のふれあい相談員が2名、スクールカウンセラーが1名配置されています。教育相談室は東校舎1階の「心あったまルーム」と西校舎3階の教育相談室で行っています。電話による予約も受け付けています。

直通電話090-6930-4860 問合せ先 副校長 蛭田江麻 03-3924-1126